令和５年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■自主研究 2	公益目的事業　11
主査名	谷口綾子　筑波大学教授	
研究テーマ	自動運転システムの社会的受容を計測する標準的な指標提案に向けた 学際的検討	

研究の目的：

(1)自動運転システム(Autonomous Vehicles: AVs)の社会的受容を評価する指標を標準化すべく検討を行い、複数の地域・実験に適用することで有用性を評価し、AVs 社会的受容の標準的な指標を提案すること

(2)目的 1 で得られた評価指標のデータを参考に学際的な議論を通じて、AVs はどうあるべきか、社会は受容すべきか、等々に関する知見を取りまとめる。

研究の経過（4 月～3 月）：2023 年度は、主に下記 3 つの研究を進めた。

①AVs の社会的受容を計測する標準的な指標を検討し、日本全国の関係者(岐阜大、ボードリー、多摩大、スズキ（株）等)に共有して活用を依頼するとともに、青森県奥入瀬渓流の観光客と住民、日立市・サンフランシスコ・フェニックス市民を対象としたアンケート調査を実施

②子ども送迎行動の世代間比較と AVs 導入による親子コミュニケーションの変容可能性の調査分析

③自動運転バスのエクステリア印象評価とドライバーの配慮行動に与える影響の定量分析

【研究会、視察】

①2023 年 4 月、米国サンフランシスコの Cruise 社を訪問し、試乗したほか、自動運転車両の実験場 GoMentum Station、小型 2 人乗り自動運転車両 Glydway 社を訪問し情報収集を行った。

②2023 年 5 月 16 日ボードリー社がエストニアより輸入した自動運転バス mica の視察を行った。

③2023 年 7 月 25 日自動運転バスのエクステリアの社会的受容に関する研究打ち合わせを行った。

④2023 年 9 月 12 日、EU の SHOW プロジェクトとのミーティングにおいて、標準的な指標について議論するとともに、11 月に来日する際にミーティングすることとなった。

⑤2023 年 9 月 14 日-16 日、北海道上士幌町にて研究会開催、上士幌町の自動運転バス・まちづくり視察。

⑥2023 年 11 月 14－15 日 CooL4 主催の Mobility Innovation Week Japan にて話題提供、ネットワーキング

⑦2024 年 3 月 21－22 日　岐阜市において研究会開催、岐阜市の自動運転バス視察・試乗。

研究の成果（自己評価含む）：研究成果としては下記のとおりである。

(1) AVs の社会的受容を計測する標準的な指標を用いたアンケート調査については、2024 年 3 月末を締め切りとしており、現在データクリーニングと分析を実施中である。

(2)子どもの送迎行動は過去 50 年間で増加傾向にあり、特に保護者(送迎者)にとって子どもとの貴重なコミュニケーションの場として認識されていること、AVs 導入でその機会が減ることを懸念する層もいることが示された。

(3)自動運転バスの外見として女性は「かわいい車両」、男性は「速い車両」、を好む傾向が示唆された。

今後の課題：

日本の AVs は実証実験から定常運行のフェーズに移行しつつあり、今後、事故や想定外の事象の発生が増加する可能性がある。一般市民の社会的受容性を比較検討可能な指標の重要性は増すと考えられることから、今後も開発した指標の普及・改善に努めるとともに、AVs を地域社会にソフトランディングさせる方途を探っていきたい。